

はじめよう！『ながら防犯』 活動事例集

～防犯活動を生活の一部に～



『ながら防犯』とは

「仕事」「通勤・通学」「買い物」「ウォーキング」「ジョキング」「犬の散歩」「花の水やり」「あいさつ」などの、日常生活行動の中に、防犯の視点を取り入れて行動しながら、地域の「異変」「異常」「危険箇所」に気づき、それを防犯や交通安全等の活動に関わる人に伝えることで、犯罪を未然に防ぐ一連の行動を『ながら防犯』と呼びます。

これは、個人や団体を問わず、誰もが日常生活の中で、気軽に実践できる防犯活動です。

○地域の「異変」「異常」「危険箇所」とは

このまま放置すると、犯罪や事故につながる可能性がある状態を指します。

- 例)「不審者(車)を見かけた」「徘徊する人を見かけた」
- 「住宅の窓が壊れていた」「通りの防犯灯が消えていた」
- 「落書きを見つけた」「大量のゴミが放置してあった」
- 「ポストにチラシ等が溜まっていた」など。

○防犯や交通安全等の活動に関わる人とは

- 例)「通学路で子ども達を見守る“見守り隊”の人」
- 「青パトに乗った人」
- 「横断歩道で交通誘導している人」
- 「オフィスやマンション等の警備員」
- 「警察官」など。

◎『ながら防犯』の活動事例

重要 共通編

個人、団体、事業者、自治会、行政など、すべての人・組織が、共通に取り組む重要な防犯活動です。

●“ながら防犯”活動している人への声かけ、あいさつ、会釈

→「見守り隊」「青パト」などの直接防犯活動に関わる人や、服・帽子・自転車・車等に“ながら防犯”“地域見守り”“防犯パトロール中”などの腕章・バッジ・ステッカー等を付けた、“ながら防犯”に取り組む人を見かけたら、『ご苦労さまです』『こんにちは』などの声かけやあいさつをしましょう。あいさつが苦手な人は、軽く頭を下げる会釈でも結構です。

『地域の安全は地域で守る』が基本。行政や一部の住民だけでは、地域の安全・安心まちづくりは実現できません。防犯に取り組む人は、あなたに代わって活動してくれています。通勤・散歩・買い物・仕事中の、あなたの一言や会釈は、防犯に取り組む人のモチベーションアップにつながります。あいさつや会釈も“ながら防犯”活動の一つ。これであなたも“ながら防犯”実践者の仲間入りです。

例えば、「〇〇自治会（〇〇会社）は“ながら防犯”活動を実践・応援します」と宣言し、“ながら防犯”活動している人を見かけたら、地域の住民や社員は積極的にあいさつや会釈をしましょう。あいさつや会釈で互いに顔見知りになれば、地域の異変等も伝えやすくなります。また、人と人との絆も深まり、つながり効果は防災や福祉分野にも広がります。



個人編

地域の「異変」「異常」「危険箇所」に気づき、それを周囲の人、防犯等の活動に関わる人、警察などに伝えます。

①家に居ながら

家に居ながらできる防犯活動です。

●通学中の子ども達を家の中から見守る。

→無理せず、できる日の、できる時間に、窓・ベランダ・バルコニーなどから子ども達を見守る（一人暮らしの高齢者の見守りにもつながる）。

●花の水やりや庭掃除等をしながら子ども達を見守る。

→朝8時、昼3時の子ども達の通学時間に合わせて外の用事を行う（買い物や散歩などの、外出の際の活動にも有効）。

・83（ハチサン）運動



②移動しながら

外で移動しながらできる防犯活動です。

●地域の「異変」「異常」「危険箇所」に気づき、伝える。

→通勤・通学、買い物、ウォーキング、ジョキング、犬の散歩中などに、地域の異変等に気づき、それを防犯・交通安全等の活動に関わる人や警察に伝える。

